

**INFORMATION TERMINAL EQUIPMENT AND INTERNET TERMINAL EQUIPMENT**

Patent Number: JP11272377  
Publication date: 1999-10-08  
Inventor(s): MATSUNAGA TAKAYUKI  
Applicant(s): YAZAKI CORP  
Requested Patent: ☐ JP11272377  
Application Number: JP19980072851 19980320  
Priority Number(s):  
IPC Classification: G06F3/00; G06F3/023; H03M11/04  
EC Classification:  
Equivalents:

---

**Abstract**

---

**PROBLEM TO BE SOLVED:** To provide an information terminal equipment capable of improving operability for data input while removing misinput of data as much as possible.

**SOLUTION:** A virtual keyboard 13 including plural keys 15 and key identification information 17 expressing allocation data corresponding to respective keys 15 so as to identify each data from others is displayed on the display screen 9 of a display device 8. When any one of the keys 15 on the keyboard 13 is selectively inputted, allocation data corresponding to the selectively inputted key are read out from plural allocation data stored in an allocation data storing part 5 and displayed on the display screen 9 of the display device 8.

---

Data supplied from the esp@cenet database - I2

### (11) 特許出願公開番号

(43) 公開日 平成11年(1999)10月8日

F I  
G O 6 F 3/00 6 1 0  
3/023 3 1 0 L

(71)代理人 芥理上 三好 秀和 (外8名)

Figure 1 illustrates a system for processing input data. The process flow is as follows:

- Input data acquisition (3)
- Input data storage (5)
- Display screen (7)

The display screen (7) shows a graphical user interface (GUI) with the following components:

- A text input field containing the text "abc".
- A keyboard layout with Japanese characters and symbols.
- A row of buttons at the bottom: "Input", "Search", "abc", "xyz", "Aさん", "Bさん", and "Cさん".

【特許請求の範囲】

【請求項1】 文字、数字、記号、又は各種機能を含むデータを入力する際に用いられる複数のキーと、当該複数のキーの各々に対応付けて、当該複数のキーの各々に割り付けられる割付データをそれぞれ設定する割付データ設定手段と、

当該割付データ設定手段で設定された割付データを、前記複数のキーの各々に対応付けてそれぞれ記憶する割付データ記憶手段と、

前記複数のキーと、当該複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自他識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、当該仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、前記割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、当該選択的に入力されたキーに該当する割付データを、前記表示手段の表示画面上に表示する表示制御手段と、

を備えて構成されることを特徴とする情報端末装置。

【請求項2】 前記仮想キーボードは、複数の種類となることを特徴とする請求項1に記載の情報端末装置。

【請求項3】 前記仮想キーボードは、複数の操作者毎に複数の種類用意されることを特徴とする請求項1又は2に記載の情報端末装置。

【請求項4】 前記割付データ設定手段で設定される割付データは、文字、数字、記号、又は各種機能の組み合わせに係る任意のデータ列となることを特徴とする請求項1乃至3に記載の情報端末装置。

【請求項5】 文字、数字、記号、又は各種機能を含むデータを入力する際に用いられる複数のキーと、当該複数のキーの各々に対応付けて、当該複数のキーの各々に割り付けられる割付データをそれぞれ設定する割付データ設定手段と、

当該割付データ設定手段で設定された割付データを、前記複数のキーの各々に対応付けてそれぞれ記憶する割付データ記憶手段と、

前記複数のキーと、当該複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自他識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、当該仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、前記割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、当該選択的に入力されたキーに該当する割付データを、前記表示手段の表示画面上に表示する表示制御手段と、

を備えて構成されることを特徴とするインターネット端末装置。

【発明の属する技術分野】本発明は、文字、数字、記号、又は各種機能を含むデータが各々に割り付けられた複数のキーを用いて、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる情報端末装置、及びインターネット端末装置に関する。

【0002】

【従来の技術】従来より、例えば特開平4-241613号公報に開示されているように、文字、数字、記号、又は各種機能を含むデータがそれぞれに割り付けられた複数のキーの集合体であるキーボードを用いて、データ入力時の操作性向上を企図した技術が知られている。

【0003】特開平4-241613号公報に記載の技術は、データを打鍵入力するキー部と、各キーに対応するデータを格納するデータ格納部と、外部よりキーに対応させるべきデータを入力するデータ入力部と、打鍵されたキーに対応したデータを外部装置に出力するデータ出力部と、任意のデータを任意のキーに対応させ前記キーの押下によって前記データを出力する制御部とを有して構成されている。

【0004】この技術をキーボードに適用すれば、各キーに対応するデータが可変的に割り付けられることにより、コンピュータ側のソフトウェア等を変更することなしに、キーボードの利用者毎に対応した任意のキー配置を実現することができる。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、上述した従来のキー対応データ可変割り付け技術をキーボードに適用した場合には、キートップ表示を見ながら操作者がキー入力操作を行う際に、意図したデータ内容と実際に入力されるデータ内容とが一致しないおそれがあるという解決すべき課題があった。

【0006】これについて、従来のキー対応データ可変割り付け技術を、初期状態において各キーにそれぞれ割り付けられているデータ内容が、各自のキートップに固定的に印字表示される一般的なキーボードに適用した場合を例示して説明すると、あるキーに割り付けられているデータ内容が変更されたとき、この変更されたデータ内容に併せて該当するキートップ表示は変更されないため、キートップ表示を見ながら操作者がキー入力操作を行った場合には、意図したデータ内容と実際に入力されるデータ内容とが一致しないという事態が生じるおそれがあった。

【0007】本発明は、上記課題を解決するためになされたものであり、複数のキーと、複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自他識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、あらかじめ記憶されている割付デ

【発明の詳細な説明】

【0001】

ータのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示手段の表示画面上に表示することにより、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる情報端末装置を提供することを課題とする。そして、本発明は、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができるインターネット端末装置を提供することを課題とする。

【0008】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決するために、請求項1の発明は、文字、数字、記号、又は各種機能を含むデータを入力する際に用いられる複数のキーと、当該複数のキーの各々に対応付けて、当該複数のキーの各々に割り付けられる割付データをそれぞれ設定する割付データ設定手段と、当該割付データ設定手段で設定された割付データを、前記複数のキーの各々に対応付けてそれぞれ記憶する割付データ記憶手段と、前記複数のキーと、当該複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自己識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、当該仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、前記割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、当該選択的に入力されたキーに該当する割付データを、前記表示手段の表示画面上に表示する表示制御手段と、を備えて構成されることを要旨とする。

【0009】請求項1の発明によれば、まず、割付データ設定手段を用いて、複数のキーの各々に対応付けて、複数のキーの各々に割り付けられる割付データがそれぞれ設定される。次に、割付データ設定手段で設定された割付データが、複数のキーの各々に対応付けて割付データ記憶手段にそれぞれ記憶される。そして、表示制御手段は、複数のキーと、複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自己識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示手段の表示画面上に表示する。

【0010】このように、複数のキーと、複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自己識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示手段の表示画面上に表示するようにしたので、データの誤入力を可及的に

排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0011】また、請求項2の発明は、前記仮想キーボードは、複数の種類となることを妨げないことを要旨とする。

【0012】さらに、請求項3の発明は、前記仮想キーボードは、複数の操作者毎に複数の種類用意されることを要旨とする。

【0013】請求項3の発明によれば、仮想キーボードは、複数の操作者毎に複数の種類用意されるので、したがって、複数の操作者の各々は、各自に最適な環境にカスタマイズされた仮想キーボードを用いてデータ入力を行うことができるので、この結果、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0014】しかも、請求項4の発明は、前記割付データ設定手段で設定される割付データは、文字、数字、記号、又は各種機能の組み合わせに係る任意のデータ列となることを妨げないことを要旨とする。

【0015】請求項5の発明によれば、割付データ設定手段で設定される割付データは、文字、数字、記号、又は各種機能の組み合わせに係る任意のデータ列となることを妨げないので、したがって、例えば、あるキーに対応する割付データとしてあるデータ列を設定しておけば、あるキーを1度選択入力することであるデータ列を表示させることができ、この結果、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0016】そして、請求項5の発明は、文字、数字、記号、又は各種機能を含むデータを入力する際に用いられる複数のキーと、当該複数のキーの各々に対応付けて、当該複数のキーの各々に割り付けられる割付データをそれぞれ設定する割付データ設定手段と、当該割付データ設定手段で設定された割付データを、前記複数のキーの各々に対応付けてそれぞれ記憶する割付データ記憶手段と、前記複数のキーと、当該複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自己識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、当該仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、前記割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、当該選択的に入力されたキーに該当する割付データを、前記表示手段の表示画面上に表示する表示制御手段と、を備えて構成されることを要旨とする。

【0017】請求項5の発明によれば、まず、割付データ設定手段を用いて、複数のキーの各々に対応付けて、複数のキーの各々に割り付けられる割付データがそれぞれ設定される。次に、割付データ設定手段で設定された割付データが、複数のキーの各々に対応付けて割付デー

タ記憶手段にそれぞれ記憶される。そして、表示制御手段は、複数のキーと、複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自他識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示手段の表示画面上に表示する。

【0018】このように、複数のキーと、複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自他識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示手段の表示画面上に表示するようにしたので、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性が格段に向上されたインターネット端末装置を得ることができる。

【0019】

【発明の実施の形態】以下に、本発明に係る情報端末装置、及びインターネット端末装置の実施形態について、図に基づいて詳細に説明する。

【0020】図1は、本発明に係る情報端末装置、及びインターネット端末装置に共通する概略ブロック構成図、図2は、本発明に係る情報端末装置、及びインターネット端末装置に共通する動作フローチャート図である。なお、本実施形態中、情報端末装置としてインターネット端末装置を採用した形態を例示して説明するが、本発明に係る情報端末装置とインターネット端末装置とはその主要部の構成が共通であるため、インターネット端末装置を説明することで情報端末装置の説明に代えることとする。

【0021】本発明に係るインターネット端末装置1は、図1に示すように、割付データ設定手段として機能する割付データ設定部3と、割付データ記憶手段として機能する割付データ記憶部5と、後述する仮想キーボード13等を、表示手段である表示装置8の表示画面9上に表示する表示制御手段として機能する表示制御部7とを備えて構成されている。

【0022】割付データ設定部3は、文字、数字、記号、又は各種機能を含むデータを入力する際に用いられる複数のキー15の各々に対応付けて、複数のキー15の各々に割り付けられる割付データをそれぞれ設定する機能を有している。なお、割付データ設定部3で設定される割付データは、文字、数字、記号、又は各種機能の組み合わせに係る任意のデータ列となることを妨げないものとする。

【0023】割付データ記憶部5は、割付データ設定部

3で設定された割付データを、複数のキー15の各々に対応付けてそれぞれ記憶する機能を有している。

【0024】表示制御部7は、複数のキー15と、複数のキー15の各々にそれぞれ該当する割付データが自他識別可能に表現されたキー識別情報17とを含んで構成される仮想キーボード13を、表示装置8の表示画面9上に表示するとともに、仮想キーボード13における複数のキー15のうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、割付データ記憶部5に記憶されている割付データのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示装置8の表示画面9における入力データ表示部11に表示する機能を有している。なお、仮想キーボード13は、操作者にとっての複数のキー15の視認性を向上するために、表示画面9上に立体的に表示する如く構成することができる。

【0025】仮想キーボード13における複数のキー15のうち、いずれかのキーを選択的に入力するために、図示しない入力指示装置が用いられる。この入力指示装置としては、例えば、マウス、赤外線感知方式のスライドパッド、ジョイスティック、タッチパネル等を適宜採用することができる。具体的には、入力指示装置を用いて、仮想キーボード13に含まれる複数のキー15のうち、いずれかのキー位置へポインタを移動させることで、意図するキーを選択的に指示入力することにより、選択的に指示入力されたキーに該当する割付データが、入力データ表示部11に表示される如く構成されている。

【0026】この形態に代えて、例えば、入力指示装置を用いて、仮想キーボード13に含まれる複数のキー15のうち、いずれかのキー位置へポインタを移動させることで、意図するキーを選択的に指示入力した後に、さらに、「Enter」キーを指示入力することにより、初めに指示入力されたキーに該当する割付データが、入力データ表示部11に表示される如く構成することもできる。

【0027】次に、上述の如く構成されたインターネット端末装置1において、複数のキー13の各々に対応付けて、複数のキー15の各々に割り付けられる割付データをそれぞれ設定する際の操作手順について、ある操作者、例えば「Aさん」が、仮想キーボード13のキー配置又は割付データを、自身の使い勝手に適したものにカスタマイズする場合を例示して説明する。

【0028】まず、指示入力装置を用いて、仮想キーボード13に含まれる複数のキー15のうち、「割付設定」キーを選択的に指示入力した後に、「Enter」キーを指示入力することにより、仮想キーボード13の操作入力モードが、通常モードから割付設定モードへ移行する。

【0029】このとき、操作者「Aさん」が、あらかじめ複数の操作者向けにカスタマイズしておいた「Aさ

ん」キーを選択的に指示入力した後に、「Enter」キーを指示入力すると、現在表示中の仮想キーボード画面の他に、仮想キーボード13の一部を構成する「Aさん」用の機能登録キーが複数選択された機能登録キー群を含む図示しないウィンドウ画面が起動する。なお、このウィンドウ画面の起動が直ちに代えて、現在表示中の仮想キーボード画面に加えて、「Aさん」用の機能登録キーが複数選択された機能登録キー群を、仮想キーボード画面を拡張させて表示する形態を採用することもできる。

【0030】このウィンドウ画面に表示された複数の機能登録キーのうち、操作者「Aさん」が、例えば、「機能登録1」キーを選択的に指示入力した後に、割付データとして、URL (Universal Resource Locator) 規格に準拠して設定登録された、インターネット上の矢崎総業株式会社ホームページにアクセスする際に用いられるドメイン名である「<http://www.km.jp/00pfb.html>」を指示入力装置を用いて入力設定すれば、割付データ記憶部5の「機能登録1」キーに対応する割付データとして、「<http://www.km.jp/00pfb.html>」が設定登録されることになる。

【0031】このとき、「機能登録1」キーに付されるキー識別情報17としては、設定登録時に、割付データの内容「<http://www.km.jp/00pfb.html>」自身、又は割付データの省略形態である「<http://www.km.jp>」等が既定値としてデフォルト設定される。したがって、「機能登録1」キーのキートップ表示は、「<http://www.km.jp/00pfb.html>」、又は「<http://www.km.jp>」等に変更されることになる。

なお、このデフォルト設定値は、操作者の好みに応じて、例えば「矢崎ホームページ」等に適宜変更することもできる。本実施形態では、「機能登録1」キーのキートップ表示が、「矢崎ホームページ」に変更されたものとして以下の説明を進める。

【0032】同様にして、「Bさん」、又は「Cさん」等の複数の操作者毎に適合する仮想キーボード13のカスタマイズが順次実行される。

【0033】次に、上述の如く複数の操作者毎に適合する仮想キーボード13のカスタマイズが実行されたインターネット端末装置1の動作について、図2に示す動作フローチャート図を参照して説明する。

【0034】まず、ステップS1において、仮想キーボード13の操作入力モードが通常モードにあるとき、操作者である例えば「Aさん」が、「Aさん」キーを選択的に指示入力した後に、「Enter」キーを指示入力すると、現在表示中の仮想キーボード画面の他に、仮想キーボード13の一部を構成する「Aさん」用の機能登録キーが複数選択された図示しないウィンドウ画面が起動する。

【0035】このウィンドウ画面に表示された複数の機能

登録キーのうち、操作者「Aさん」が、例えば、「矢崎ホームページ」キーを選択的に指示入力した後に、「Enter」キーを指示入力すると、「矢崎ホームページ」キーに該当する割付データが、割付データ記憶部5から読み出され（ステップS2）、読み出された割付データである「<http://www.km.jp/00pfb.html>」が、表示装置8の表示画面9における入力データ表示部11に表示される（ステップS3）。

【0036】上述した一連の動作を、適宜のホームページ閲覧ソフトにおける閲覧先指定に適用すれば、複雑で煩わしいキー入力操作を排除して、簡易なキー入力操作のみで所望の閲覧先ホームページの場所指定を実行することができる。

【0037】このように、本発明に係る情報端末装置、及びインターネット端末装置1によれば、複数のキー15と、複数のキー15の各々にそれぞれ該当する割付データが自己識別可能に表現されたキー識別情報17とを含んで構成される仮想キーボード13を、表示装置8の表示画面9上に表示するとともに、仮想キーボード13における複数のキー15のうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、割付データ記憶部5に記憶されている割付データのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示装置8の表示画面9上に表示するようにしたので、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0038】特に、本発明をインターネット端末装置1に適用した場合には、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性が格段に向上されたインターネット端末装置1を得ることができる。

【0039】また、本発明に係る情報端末装置、及びインターネット端末装置1によれば、仮想キーボード13は、複数の操作者毎に複数種類用意されるので、したがって、複数の操作者の各々は、各自に最適な環境にカスタマイズされた仮想キーボードを用いてデータ入力を行うことができるので、この結果、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0040】そして、本発明に係る情報端末装置、及びインターネット端末装置1によれば、割付データ設定部3で設定される割付データは、文字、数字、記号、又は各種機能の組み合わせに係る任意のデータ列となることを妨げないので、したがって、例えば、あるキーに対応する割付データとしてあるデータ列を設定しておけば、あるキーを1度選択入力することであるデータ列を表示させることができ、この結果、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0041】なお、本発明は、上述した実施形態の例に限定されることなく、適宜の変更を加えることにより、

その他の態様で実施することができる。

【0042】すなわち、例えば、本発明の実施形態において、複数のキーの各々に割り付けられる割付データとして、URL (Universal Resource Locator) 規格に準

拠して設定登録された、インターネット上の矢崎総業株式会社のホームページにアクセスする際に用いられるドメイン名である「http://www.vsk.co.jp/office.html」を例示して説明したが、本発明はこれのみに

限定されるものではなく、例えば、電子メールアドレスや電話番号、又は固有名詞等、あらゆるデータを割付データとして設定登録することができる。

【0043】最後に、本発明の実施形態において、情報端末装置としてインターネット端末装置を採用した形態を例示して説明したが、本発明はこれのみに限定されるものではなく、携帯可能に構成されたパーソナルコンピュータであるいわゆるモバイルコンピュータ、携帯電話、PHSなどの、あらゆる形態の情報端末装置に適用することができることは言うまでもない。

【0044】

【発明の効果】以上詳細に説明したように、請求項1の発明によれば、複数のキーと、複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自己識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示手段の表示画面上に表示するようにしたので、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0045】また、請求項3の発明によれば、仮想キーボードは、複数の操作者毎に複数種類用意されるので、したがって、複数の操作者の各々は、各自に最適な環境にカスタマイズされた仮想キーボードを用いてデータ入力を行うことができるので、この結果、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0046】さらに、請求項4の発明によれば、割付デ

ータ設定手段で設定される割付データは、文字、数字、記号、又は各種機能の組み合わせに係る任意のデータ列となることを妨げないので、したがって、例えば、あるキーに対応する割付データとしてあるデータ列を設定しておけば、あるキーを1度選択入力することであるデータ列を表示させることができ、この結果、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性を格段に向上することができる。

【0047】そして、請求項5の発明によれば、複数のキーと、複数のキーの各々にそれぞれ該当する割付データが自己識別可能に表現されたキー識別情報とを含んで構成される仮想キーボードを、表示手段の表示画面上に表示するとともに、仮想キーボードにおける複数のキーのうち、いずれかのキーが選択的に入力されたとき、割付データ記憶手段に記憶されている割付データのなかから、選択的に入力されたキーに該当する割付データを、表示手段の表示画面上に表示するようにしたので、データの誤入力を可及的に排除しながら、データ入力時における操作性が格段に向上されたインターネット端末装置を得ることができるというきわめて優れた効果を奏する。

#### 【図面の簡単な説明】

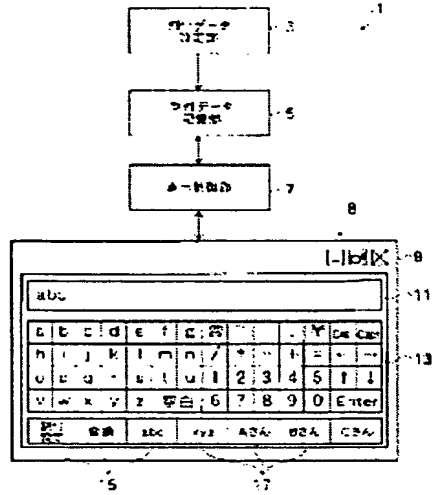
【図1】図1は、本発明に係る情報端末装置、及びインターネット端末装置に共通する概略ブロック構成図である。

【図2】図2は、本発明に係る情報端末装置、及びインターネット端末装置に共通する動作フローチャート図である。

#### 【符号の説明】

- 1 インターネット端末装置 (情報端末装置)
- 3 割付データ設定部 (割付データ設定手段)
- 5 割付データ記憶部 (割付データ記憶手段)
- 7 表示制御部 (表示制御手段)
- 8 表示装置 (表示手段)
- 9 表示画面
- 11 入力データ表示部
- 13 仮想キーボード
- 15 複数のキー
- 17 キー識別情報

【図1】



【図2】

